

第8回帯広市総合計画策定審議会第2専門部会 議事概要

1. 日 時 平成20年7月24日(木) 15:00~17:00

2. 場 所 5階フロア会議室

3. 議事概要

(1) めざすまちの姿について

【委員】

都市像の根底にあるものは何かということを考えることが重要。帯広市の特性は何かということ、課題の認識、時代の潮流などを踏まえ、これまで帯広市が『田園都市』という言葉を使ってきた根底にある「理念」や「従来の考え方」等について、今後も継承すべきものなのか、そうでないのかを議論することが必要。

【委員】

帯広市の特性について、例えば環境の視点など、時代潮流に対応した新しい視点で捉えなおすことが必要であると考え。今の社会をどう捉え、今後どうしていくかということを確認にしていくべきである。

【委員】

『田園都市』については、ポジティブなイメージを感じている。日照率が全国有数の高い地域であることや都市と農村との共存など、誇りに思える部分が多くある。何を目指していくのかという部分が明確であれば、引き続き『田園都市』でよいと考える。

【委員】

食糧自給率がカロリーベースで1,100%ある帯広十勝においては、『田園都市』というイメージは、現在においても適切であると考え。

【委員】

言葉からの受けるイメージについては、人それぞれにより異なるものであると感じている。自分のなかでは「田園」はガーデンであり、都会の郊外といったイメージがある。帯広においては、農村に力強さがあることから、『田園都市』というイメージではないと感じる。

【委員】

『田園都市』については、「明るい」、「のどかな」といったイメージがあるが、地球環境の悪化などにより、こうしたイメージをいつまで持ち続けられるか懸念される。また食糧生産、農業基盤という点を強く出していくことが必要と考える。

【委員】

帯広市は環境モデル都市に選定されたが、新しい総合計画の目玉となるものであり、特徴ある計画とするために、環境について記述は必要となるものと考え。バイオマス資源や帯広畜産大学など地域の宝といえるものについて、宝の持ち腐れとならないよう十分活用していくことが重要である。

(2) めざすまちの姿(分野)について

【委員】

これまで審議会において議論されていないが、今後、「新型インフルエンザ」に対して、どういった体制をとって対応していくかということは、大きな課題である。「新型インフルエンザ」に感染が拡大すれば日本だけで3,200万人が感染し、64万人が死亡する(死亡率2%)といわれているが、死亡率はもっと高いともいわれており、流行すると、大規模な災害となる。対策については、保健所、医療機関との連携のほか、市民の対応や学校での指導など、広範囲にわたるものとなる。国や道には感染症に係るマニュアルがあるが、市にもこうしたものが必要となってくるものと考え。

【委員】

「健康で自立した生活」とあるが、「健康」とは身体のみならずこころや精神についても該当するため、「心身ともに」という語句を「健康」の前に挿入することが適切であると考え。自殺予防や精神の分野については、これまで保健所など北海道が核となって行ってきたが、今後、市町村レベルに降りてくる方向もあり、市においても取り組みをすすめていくということが必要となることから、新しい総合計画における特色のあるまちづくりの一つに挙げるべきものと考え。

【委員】

「誰もが安心して子どもを産み育てることができる環境の整備」とあるが、「生む」時期と「育てる」時期に限定されている。この時期を過ぎても成長過程に応じた行政の取り組みは重要である。

【委員】

子育ては義務教育というイメージがあるが、30代でも心の病を含め対応すべきことがある。また不登校児などを公的に扱う機関の充実が必要と考える。 以上